



6月の「第2回傾聴作文」では、4～6年生は担任ではない先生の話（例えば4年1組で5年1組の担任が話す）、2・3年生は校長先生のお話を聞いて自分が感じたことを文章にまとめました。（1年生は2学期から実施）

第2回の校長先生のお話と子どもたちの感想をお知らせします。

☆☆☆ お話をきいて ☆☆☆

今日の傾聴作文は、2，3年生に、「ありがとう」という言葉について、お話をします。このお話は、10年近く前の俊君という小学校6年生の男の子が、家族の絆について書いた作文で、千葉県のコンクールで賞をもらった作文です。それを読み上げますね。

「俊、じゃまするなよ。」家のリビングでみんなで勉強をしていた時に、二人のお兄ちゃんに言われた。僕は、いやになって部屋に引っ込んだ。少ししたら、「俊、風呂一緒に入ろう」と2番目のお兄ちゃん。僕のことじゃまだと言っていたのに何だ？と思ったけれど、少しうれしくなってきた。二人のお兄ちゃんの背中が何だか大きくみえて、さっきのいやな気持ちがどこかへ行った。風呂から出たら、お母さんが、「俊、米たいておいてくれたの。ありがとう。みんな感謝だよ、俊に」と。妹も、「ありがとね」と笑顔。お兄ちゃんたちも、「さすが俊。ありがとね」と。みんな勝手だよなと思ったけれど、なぜか心があたたかくなり、みんなの笑顔がやさしくみえた。お父さんが「俊はよく気がつくな。ありがとう」と。家族全員に「ありがとう」と言われてこんなにうれしいと思ったのは、久しぶりだった。僕の方こそ、「みんな、いつもありがとう。」

何か、心温まる素敵な作文ですね。みなさんも「ありがとう」と感謝されるのはうれしいと思います。だから、みなさんも、家族だけでなく、いろいろな人に「ありがとう」と言えるでしょうか。

児童の感想から

- ・この話を聴いて私は、しゅんさんがリビングでお兄さんたちに「あっちいけよ。」と言われて、悲しかっただろうな、と思いました。でも二番目のお兄さんが「一緒にお風呂に入ろう。」と言ってくれて、しゅんさんは嬉しかったと思います。私は嬉しい時やお礼をしたいときには「ありがとう。」という言葉を使いたいなと思いました。（2年生）
- ・しゅんさんがお兄さんと三人で勉強をしていたら「しゅん、じゃま。」と言われて部屋に戻ってしまいました。しばらくしたらお兄さんが戻ってきて「しゅん、一緒にお風呂に入ろうよ。」と言ってくれて、お母さんもお父さんもしゅんさんのことをほめてくれたお話でした。私は、嫌なことがあっても、その後でいいことがあるんだなと思いました。これからは自分から人をほめてあげて、自分も人からほめてもらえる人になりたいです。そしてお互いにほめてもらって「ありがとう。」を言いたいです。（2年生）
- ・校長先生のお話を聴いて、しゅんさんはすごいと思い、僕も同じようにしたいと思いました。そして、しゅんさんのように何かに気づいて素早い行動をしようと思いました。そして、ありがとうの言葉をたくさん言われてみたいです。また相手の気持ちと自分の気持ちをよくしたりさわやかにします。（2年生）
- ・校長先生のお話を聴いて、「ありがとう。」の言葉を使うと心が温かくなることが分かりました。自分が「ありがとう。」と言うことで、まわりの人や地域の人・家族・先生も「ありがとう。」と言ったら温かくなると思うし、自分も「ありがとう。」と言われると心が温かくなるから、今度から地域の人や家族・先生に「ありがとう。」と言いたいです。
- ・私は、家族や友達に「ありがとう。」と言われると嬉しい気持ちになっていいな、と思いました。校長先生のお話を聴いて、自分も「ありがとう。」と言うのも嬉しいし、言われても嬉しいので「ありがとう。」と言いたかったです。私も助けてあげて「ありがとう。」と言われると嬉しい気持ちになるし、助けてくれた人は本当の友達なので、私が助けてもらったら「ありがとう。」と言いたいです。これからは「ありがとう。」「ごめんね。」を言うように心がけて、お兄ちゃんとけんかをしたら「ごめんね。」と言えるように頑張ります。（3年生）
- ・お話を聴いて、私は勉強しているお兄ちゃんに「じゃま。」と言われて少しひどいなと思いました。そして二番目のお兄ちゃんが「お風呂に入ろう。」と言ったところが「どうしてさっき怒ったのに優しいんだろう。」と思いました。でも最後はみんなに「ありがとう。」と言われてよかったと思います。私も妹がいて、このお話のようなことやけんかもするけれど、妹にも「ありがとう。」と思うことがいっぱいあります。これからも「ありがとう。」と思ったら正直に言いたいです。（3年生）

2年1組 道徳「黄色いベンチ」の学習より



あらすじ

遊びに夢中になるあまり、約束やきまりを守らず自分勝手な振る舞いをした、たかしとてつおが、周囲の人に迷惑をかけたことに気づくまでが描かれている。

ねらい

自分勝手な行動が人の迷惑になることに気づかせ、きまりや約束を守り、みんなが使うものを大切にしようとする心情を育てる。

児童の感想

- ・公園も学校も、自分のものじゃなくて、みんなのものだから、きれいに使わないといけないと知りました。
- ・みんなのものと、自分のものは違ってみんなのものはみんなが使うからきれいに使おうと思いました。

2年2組



あらすじ

みずきの内面や周囲の人々との関りを、児童が自分と関わらせて自分の長所を見付けていく学習ができる。

ねらい

自分のよさを見付け、さらに伸ばそうとする心情を育てる。

児童の感想

- 自分は色々なことをがんばっていたなんて知りませんでした。これからも、褒められたことを続けていきたいです。
- 自分には良いところがないと思っていたけど、家族や友達が「いっぱいあるよ。」と教えてくれました。私にはよいところがたくさんあるのだなと嬉しくなりました。

今回の道徳だよりは、保護者の方からお寄せいただいた「ちょっといい話」をご紹介します。

近所の人から、ちびっこ広場（公園）にゴミがたくさん落ちていて小さい子が遊ぶことができないと聞きました。娘がよく使う公園だったため、「自分たちはゴミ袋を持って行って捨ててはいけないけれど、この話を聞いてどうする？」と尋ねると娘が「ゴミを拾いに行く。」と言ってくれたので任せました。その日、公園に来た子供たちに声をかけ「一緒にゴミ拾いをしない？」と聞いたら、みんな快くゴミ拾いをしてくれました。近くにいた中学生の女子2人も、それを見て手伝ってくれたそうです。自分たちのゴミではないのに自分からゴミ拾いをすると聞いた娘や手伝ってくれた子供たちをたくさんほめてあげたいです。

お母さんの話を聞いて「ゴミを拾いに行こう。自分たちの使っている公園をきれいにしよう。」という純粋な思いを実際に行動に移したことは大人でもなかなかできない素晴らしい行動です。また、その強い思いがたくさんの子供たちに広がり大きな活動になったことにも感心します。良いと思うことを勇気をもって行い、その思いに賛同し一緒に活動することができる八木郷小学校の子供たち、中学生がいることは大きな誇りです。

道徳便りに保護者の皆様からの心に残った出来事やエピソードを掲載したいと思います。子供たちのよい言動・最近見かけた心温まる出来事・家庭での会話から等、どんなことでも結構です。（一年中、受け付けています。）また、道徳便りに名前を掲載してもよいかの記入もお願いします。

各担任まで提出して下さい。ご協力よろしくお願いします。

切り取り線	
年 組	児童名（ ）
※ 名前を掲載（ する ・ しない）	